

# 保育園・幼稚園などでの保護者負担を抑えるため市は一層の努力を



百年に一度といわれる不況が、子育て家庭の暮らしも直撃しています。「仕事が少なくなって、退職に」「ボーナスがガタ減り。出るだけましと我慢している」など、暮らしが厳しいとの声があちこちから聞こえてきます。

こうしたもと、鈴木たくや議員は子育てにかかわる経済的負担を抑えるために羽村市も一層の努力をおこなうべきとの質問をおこないました。

## 平均 8.8% 値上げの答申。 「保育園の料金はすくなくとも維持するべき」

12月8日、市が設置した「保育園運営費に係る保護者負担金審議会」は、平均 8.8% の保育料の値上げを2年間かけておこなうべき、との答申を市長あてに提出しました。来年4月から保育園の料金が値上げされる可能性が高まっています。

これに先立ち、12月4日の市議会で鈴木たくや議員は、保育料を値上げをしないよう求める質問をおこないました。市長は答申の内容を考慮して決定するとの答弁をおこないました。

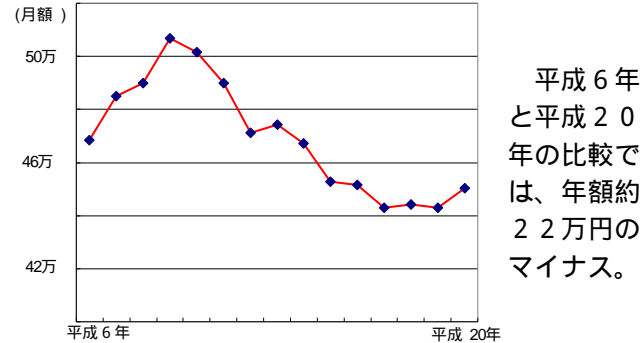
鈴木 現在の保育料は、平成6年に設定されたものですが、当時の子育て世代の収入と、現在の子育て世代の収入を比較してみると、年間約22万円下がっています。

保育料を値下げすべきと言いたいところですが、すくなくとも、現在の保育料を維持する必要があると考えます。保育園の料金は値上げすべきでないと考えますが、どうですか？

市長 審議会の答申を受けた後、その内容を考慮して市の方針を決定していきます。

### < 子育て世代の実収入の推移 >

(総務省・家計調査より。平成6～11年は30～34歳、12年以降は30～39歳世帯)



平成6年と平成20年の比較では、年額約22万円のマイナス。

## 幼稚園へ通う子どもへの補助金を

「幼稚園に子どもを通わせる負担が重い」との声も大きいものがあります。幼稚園児の保護者には、国や都からの助成金の他、羽村市からの助成金が出されています(3,400円/月)。これは青梅市(3,900～5,700円/月)

と較べても低く、引き上げるべきだとの質問を鈴木議員はおこないました。市長は引き上げる考えのないことを答弁しました。

鈴木 幼稚園の保護者からは、幼稚園の保護者にたいする助成金の増額、入園料への助成金制度創設などの要望がなされています。幼稚園児への補助金を増額すべきと考えますが、どうですか？

市長 羽村市の加算額、月額3,400円は多摩地区26市の中でも、上位から10番目に位置しており、現段階では他市と比較しても遜色のない額であると考えております。

## 認証保育所・認定子ども園へ通う子どもへの補助金制度をつくるべきでは

東京都が独自の基準でつくった保育園が「認証保育所」です。市内の認証保育所については「小規模でアットホームな感じが良い」との評価の声がある一方、制度的には、保育料が高額で、設備などの基準は一般の保育園と比べ十分なものではありません。

特に、高額な保育料への助成金を求める声が多く、福生市や瑞穂町では実施をしています。

また、「認定こども園」は幼稚園と保育園を合わせた